

普天間飛行場周辺測定結果

1 概要

普天間飛行場周辺における各測定局の配置状況を図 F 1 に、また測定結果の概要を表 F 1 に示す。

各測定局における環境基準の類型指定状況は、9測定局中、類型 が6局、類型 が3局となっており、安波茶局以外の8局がオンラインで測定本部へ接続されている。

2 測定結果

(1) WECPNLについて

測定期間内におけるWECPNLを表 F 1 及び図 F 2 に示す。

新城局及び安波茶局以外の7局で前年度の値を上回った。

環境基準値を超過した測定局の割合は、22.2% (9局中2局) であり、安波茶局を除くと、前年度25.0% (8局中2局) と同じであった。

(2) 1日あたりの騒音発生回数について

測定期間内における1日あたりの騒音発生回数を表 F 1 及び図 F 3 に示す。

安波茶局を除くと、8局中5局で前年度の値をわずかに上回っており、上大謝名局と新城局で比較的多く発生していた。

(3) 月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数について

月別WECPNLと1日あたりの騒音発生回数を図 F 4 ~ 4 - 2 に示す。

WECPNLについて、上大謝名局では全ての月で、野嵩局でもほとんどの月で環境基準値を超過した。

1日あたりの騒音発生回数は、全体的にほぼ横ばいで推移しており、最大値は、8月の新城局で、77.9回/日であった。

また、前年度末に減少傾向にあった騒音発生回数が、今年度の4月から増加したのは、イラク派兵からの帰還が原因の一つと考えられる。

(4) 月別の平均ピークレベルと最大ピークレベルについて

月別の平均ピークレベル(dB)と最大ピークレベル(dB)の状況を図 F 5 ~ 5 - 2 に示す。

平均ピークレベルは、滑走路延長直下に位置している上大謝名局及び野嵩局において、全ての月で80dBを超えていた。

最大ピークレベルは、野嵩局、上大謝名局、新城局及び我如古局で、100dB以

上を示す月があり、上大謝名局ではほとんどの月で100dB以上の値を示した。また、最大値は、上大謝名局の117.6dBであった。

(5) 曜日別の騒音発生回数について

曜日別の平均騒音発生回数を表 F 2 及び図 F 6 ~ 6 - 2 に示す。

火曜日、水曜日及び木曜日に比較的多く、土曜日及び日曜日の発生回数は少なかった。

(6) 時間帯別の月平均騒音発生回数について

0時から7時(N1)、7時から19時(N2)、19時から22時(N3)、22時から24時(N4)の各時間帯における月平均騒音発生回数(回/月)及び航空機騒音規制措置(日米合同委員会合意事項:H8.3.28)で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数(回/月)を表 F 3 に示す。

月平均騒音発生回数は、7時から19時の間で全体の約80%を占めるが、0時から7時、22時から24時といった深夜早朝にも観測された。

航空機騒音規制措置で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数は、前年度と比較すると、上大謝名局で減少したが、新城局で増加した。その他の測定局では、多少の増減はあるが、ほぼ横ばいであった。

(7) 環境基準値の超過日数について

測定日数と環境基準値を超過した日数を表 F 4 及び図 F 7 に示す。

環境基準値を超過した割合の高い測定局は、上大謝名局で365日中259日(71.0%)、野嵩局で358日中152日(42.5%)、新城局で365日中89日(24.4%)の順であった。

(8) WECPNLと1日あたりの騒音発生回数の年度推移について

WECPNLと平均騒音発生回数(回/日)の推移を図 F 8 ~ 8 - 2 に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。

騒音発生回数は多少の変動はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

(9) 航空機騒音規制措置合意前後の航空機騒音発生状況について

平成7年度から継続して測定している野嵩局、平成9年度に設置した上大謝名局及び新城局について、WECPNLと22時から翌朝7時までの騒音発生回数(回/月)の年度推移を表 F 5 及び図 F 9 ~ 9 - 2 に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。

22時から翌朝7時の間までの騒音発生回数は、野嵩局においては平成8年度に

大幅に減少した後は、ほぼ横ばいで推移している。

上大謝名局は平成11年度から増加し、近年は減少傾向にある。

また、新城局においては、平成14年度から増加傾向にあったが、前年度は減少し、今年度はほぼ横ばいで推移した。

3 まとめ

(1) 環境基準値を超過した測定局の割合は、22.2%（9測定局中2測定局）で、安波茶局を除くと前年度と同じであった。

(2) WECPNLは、新城局以外の測定局で増加し、上大謝名局で80.9の最高値を示した。

(3) 1日あたりの騒音発生回数は、過半数の測定局で前年度を上回った。

また、曜日別では、平日に騒音の発生が多く、火曜日、水曜日及び木曜日に集中していた。

(4) 平成7年度から継続して測定している測定局について、WECPNLと夜間 - 早朝（22時～翌朝7時）の騒音発生回数の年度推移をみると、WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。

また、騒音発生回数については、野嵩局で、平成8年度に減少して以降、ほぼ横ばいで推移している。

上大謝名局においては平成11年度から増加していたが、平成15年以降は、減少傾向にある。

また、平成14年度から増加傾向にあった新城局では、前年度は減少し、今年度はほぼ横ばいで推移した。

(5) 普天間飛行場周辺における平成17年度の航空機騒音測定結果は、WECPNLや騒音発生回数などで前年度と同様又は上回った測定局が多く、普天間飛行場から発生する航空機騒音は周辺地域住民の生活環境に対し大きな影響を与えている。